大気間の構造

\mathbb{M}

流頭、成殖國、中間頭、熱 たって熱関までの大気の動は、地表に近い側から、対 ーダーを使い、九年間にわ 大気団(地上九百計まで) (鉄質県貨楽町)のMUレ もわかった。 以上の大気の拡散状況を解 き(乱然)を観察。成階四 る変励を定理化した。成層 いし、時間や季節などによ

地球制団化やオソンホールをもたらす炭酸ガス、フロンなどが、従来考えられていたより十倍も良く大気 教 京 授 大

の十分の一切度であることを突き止めた。地球規模の順点保全に新たな対応を迫る成果として注目される。 その定点化に初めて成功、成局間より上層の「中間間」での大気中の物質の拡散速度が、これまでの推定値 気物理学)の研究で明らかになった。深度教授はレーダー解析により「乱疏」と呼ばれる大気の不規則な動 四の高層部に滞留する可能性が高いことが、京都大超高層電镀研究センターの深尾画一郎教授(レーダー大

体的取付けに乏しかった。
ータがなく、知境対策も負れまでは汚染物質の衰弱デー ができるだろう」と話して一にオゾンや、フィリピン・ 用と行染程度に関する指標 インドネシアでのデータを を知ることにつながる。特にろうこ

た成材間以上の大気の助きとに大きな進歩をもたらず

は、北北で予順できなかっ る。地域規模の環境保全な一理学)の話「礼器の追用化」調方法が加わったといえ、関邦学研究所教授(大気物 など、大気観測に新しい予 田中浩・名吉屋大大東水 れた砬子がどう道はれるか ピナツボ火山から明を出さ

(E) 3版章 社会

川門では一分の一。また、 ほぼ地定通りだったが、中 如と比較すると、成層団は 方は、中間四では同十平方 仏版出版は一秒当たり一平 示す「鉛酸網拡散係数」で を、物質の拡散の度合いを があるだけだった。 関しては、これまで推定値

質の助きを測定するため、

深地教授は実際の汚染物

音をより呼和に検討する必

他ガスなどの汚染物質の助

(路·記)

型が出てきた。

間によって速度が違っこと一での観測も始めており「こ

しいとされるインドネシア 地球上で成も大気変動が流

乱流の動きを解析したMUレーダー。500本のアンテナから電波を発射する(散質県営楽町で)

表したところ、成形団での

四以上の物質の拡散などに

問期的することになり、規

は急速に拡散するとされて までに十年かかり、その後 出後、オゾン暦を破壊する

いたが、今回の成果で、成

深尾教授は乱流の動き

は交易の関係

理味みぬい 世以「敷却しならい」 手は「デタンして」

1993年(平成5年) 8月12日 (木曜日)

20. 讀賣新聞 1993(平成5)年8月12日

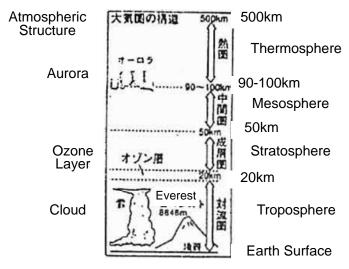
AIR POLLUTANT DIFFUSES SLOWLY

Freon (CFC) Resides ten times longer than the established value Kyoto Univ. Revealed the Turbulence Movement Yomiuri Newspaper, Tuesday Evening, Aug. 12, 1993.

Kyoto Univ. Prof. Fukao revealed that the global warming and ozone hole causing gases such as carbon dioxide Freon (CFC) have high possibility to reside in the middle and the upper atmospheres ten times longer than it had been believed. Prof. Fukao succeeded in quantifying the irregular movement of the atmosphere called "turbulence" by radar analyses for the first time in the world. He revealed that the diffusion speed of the substances in the upper middle atmosphere (mesosphere) is about one tenth of the former prediction. The result draws an attention to call for new measures for the global environmental sustainment.

Prof. Fukao has observed the atmospheric movement (turbulence) for nine years. He has analyzed the atmospheric diffusion of the middle and the upper atmospheres, and quantified the fluctuation by the time and the season. There had existed only the prediction values as for the substance diffusion in the middle and the upper atmospheres.

It has been said that Freon (CFC) takes ten years to destroy the ozone layer after emission on the ground and then disperses quickly afterward. This MU radar observation, however, shows that the gases stay far longer than the former prediction suggested. There were no measured data of the pollutant and the environmental sustainment measures lacked concrete evidence.



Atmospheric Structure